

自己点検・自己評価

学校法人 森ノ宮医療学園 ウェルランゲージスクール
校長 小山 正辰

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

1.教育理念・目的等（小山）

評価

1	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2	1-2 学校の特色は何か	5
3	1-3 学校の将来構想を抱いているか	5
4	1-4 理念に基づく教育が行われているか	4

<現状・具体的な取り組み/課題>

2021年より日本語学科と介護福祉学科の2学科を有す「ウェルランゲージスクール」として出発している。日本語学科学生のほぼ全員が介護福祉学科に進学するため、2021年度は、日本語学科では、外国人が日本文化に親しみ日本語能力をN2程度まで伸長させるという目標、介護福祉学科では国家資格「介護福祉士」を取得するまでの養成校として、学生の生活や成長を支援することが学科、および本校の目標となっている。日本語学科と介護福祉学科を併せ持った外国人教育機関という本校の特色、存在価値を教職員が理念として共有し、日本各地の学校や送り出す各国にアピールし、人材確保に努めている。大阪に本校のような教育機関があるということの一層の周知が課題である。

2.学校運営（小島）

評価

5	2-1 運営方針は定められているか	4
6	2-2 事業計画は定められているか	4
7	2-3 運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	4
8	2-4 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	4
9	2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
10	2-6 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	2
11	2-7 危機管理体制は整備されているか	2
12	2-8 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されて	4

<現状・具体的な取り組み/課題>

毎年、運営の方針が定められ、事業計画を策定している。事業計画案や予算案は、理事会で承認されている。ウェルランゲージスクール（WLS）は、日本語学科、介護福祉学科、事務課があり、各部署での議案は各部署の会議、所属長会議、管理者会議を経て理事会で決定することで、運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっている。施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法だけでなく、日本語教育機関の告示基準、介護福祉士養成施設指定規則に沿って整備している。また、人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度については、法人本部が整備している。

情報システム化等による業務の効率化、危機管理体制の整備は十分とは言えず、学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能についても、今後の取り組みを検討すべきである。

3.教職員（評価：小林/片山）

評価

13	3-1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか	5
14	3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	4
15	3-3 教職員評価を行っているか	4

<現状・具体的な取り組み/課題>

日本語学科卒業後は介護福祉学科で介護福祉士の国家資格を取り、日本の高齢者施設で活躍する学生を育てるという教育目標は教職員全員で共有できている。教育の質を向上させるため、日本語学科では教案作成等の相談、教案の確認を行い、非常勤講師を含め2カ月に1度教員の勉強会を開催している。介護福祉学科においては授業前に教員間で教案の確認を行い、コミュニケーションを密にとっている。また、両学科ともに教職員間の授業見学を定期的実施し指導力の底上げを図っている。

4.教育活動（評価：小林/片山）

評価

16	4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか	5
17	4-2 授業評価の実施・評価体制はあるか	5
18	4-3 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	4
19	4-4 成績評価は適切に行われているか	4
20	4-5 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	4

<現状・具体的な取り組み/課題>

日本語学科では2年あるいは1年半でN2合格を目指せるカリキュラムで授業を行ってきた。JLPTの合格率をあげるため恒常的にJLPT対策授業を取り入れ、2カ月前から問題集を使用した模擬テストを実施した。またアプリを利用し各科目の課題を与え、全問正解するまで問題を解かせた。2022年度も引き続き認定率向上を目指していく。介護福祉学科においては、成績別でクラス編成を行っており、国家試験を視野に入れ、各授業の習得度の確認のために適宜小テストを実施している。授業評価は両学科とも年2回、非常勤講師を含めた全教員の授業について、学生にアンケートを実施し、授業満足度を調査した。アンケート結果に基づきリフレクションシートを作成し理事面談を行った。今後も教員研修や教職員間の授業見学を通し、教員全体の指導力の向上を目指す。

5.学生支援（森川）

評価

21	5-1 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
22	5-2 学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	5
23	5-3 進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
24	5-4 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3
25	5-5 保護者と適切に連携しているか	3
26	5-6 卒業生への支援体制はあるか	2

<現状・具体的な取り組み/課題>

学生相談・健康相談は学校の開いている時間の他、各学科・事務課専用携帯電話にて常時相談を受けつけており、必要に応じて住まいまで駆けつける等、随時対応している。医療機関受診時は、教職員の同行やポケットの貸し出し等、学生生活全般をサポートしている。また、本学園大学には複数の医師が勤務しており、本校にも看護師2名が専任教員として勤務しているため、常時相談できる体制を整えている。

進路相談については、個々の学生との面談を繰り返しながら希望校を選定し、オープンキャンパスへの参加準備や書類作成のサポート、入試対策を行った。結果、全学生進学希望校へ進学することができた。

学生寮は学校から自転車で10分、または1駅隣の借り上げ寮があり、シェアハウスになっている。家電・家具・WiFi等が完備されており、来日直後から入寮でき、学業修了まで利用することができる。また、2021年4月の介護福祉学科開設に向け、新たに大阪港へ寮を借り上げ、新入生の受け入れ体制を整えた。

保護者との連携については、開学以降幸い問題がおきていないため直接やり取りすることはなかったが、親代わりともいえる経費支弁者と連携をとりながら、学生サポートを行っている。万一、保護者と連絡を取る必要が出た場合は、英語、ベトナム語、ネパール語で対応できる環境は整っている。

卒業生支援体制については、同窓会組織や卒業教育、転職相談体制等を今後構築していく予定である。

6.在留管理と生活指導（森川）

評価

27	6-1 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	4
28	6-2 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	3
29	6-3 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	3
30	6-4 常に最新の学生情報を把握しているか	5

<現状・具体的な取り組み/課題>

入国・在留管理について入国時の空港出迎えから在留カードの申請、更新等、遅延することなく適切に支援を行っていると考え。また、入国後の日本社会を理解するための支援として、入学時のオリエンテーションや個別面談等、定期的に日本の法律やルール、習慣について指導を行っている。

学生の状況や情報については、毎朝の挨拶運動や事務室窓口での学生への声かけ、個別相談時の日アロングで個々の学生の状況を把握し、最新情報を得たうえで、学内システムにて情報共有、管理している。

7.学生の募集と受け入れ（森川）

評価

31	7-1 学生の受入方針は定められているか	5
32	7-2 学生募集活動は、適正に行われているか	4
33	7-3 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
34	7-4 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5
35	7-5 適正な定員設定及び在籍者数になっているか	5

<現状・具体的な取り組み/課題>

学生の受け入れ方針や募集活動については、学校の設置の目的にもあるように、「将来介護分野に就職を希望する外国人留学生に対し、介護福祉士養成教育につながる日本語教育を行うこと」を目的に、将来日本で介護福祉士として長く働きたい学生を受け入れている。

また、介護福祉学科の学生募集活動としては、内部推薦入試の他、外部の日本語学校、各国の日本語教育機関から学生を募る際、入学時のN2相当の準備をしておくこと、説明会では説明会資料および学生募集要項で明確に伝え募集を行った。

入学者選考については、日本語学科では書類選考、日本語能力試験、面接試験の3つの合計点で公平に選考している。介護福祉学科では、書類選考、日本語能力試験、面接試験の他、日本語能力試験結果や学校長推薦書等も考慮に入れ、合計点で公平に選考を行っている。

学生定員については、2022年5月現在、日本語学科100名の1クラス20名定員に沿った定員設定及び在籍者数となっている。また介護福祉学科は、1学年80名の2学年合計160名と定められており、1クラス40名定員設定及び在籍者数となっている。

8.財務（森川）

評価

36	8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
37	8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
38	8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	5
39	8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	3

<現状・具体的な取り組み/課題>

中長期的な学校の財務基盤は、安定を第一と考え、事業計画を作成している。ウェルランゲージスクールにおいては、学費納付も納付者が多く、またコロナ禍の影響により来日が遅れた学生も多くいる中、学生個々にあった学費等の徴収に努めている。また、法人全体の借入負債についても返済計画に沿って順調に返済をしている。

予算・収支計画については学校法人として財政規模は小規模であるが、均衡をはかれている。今後は学園外部環境の変化に対し収支均衡・収入増の状況を保つよう中期的な財政管理や予算管理が必要とされる。

会計監査については、適切な外部会計監査を定期的に行っている。

9.法令等の遵守（小山）

評価

40	9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
41	9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
42	9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
43	9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか	4
44	9-5 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	4

<現状・具体的な取り組み/課題>

開校1年目から「自己点検」組織を構築、準備に努めるなど適正な運営に努めてきた。

学生に関する個人情報は、鍵のかかる書棚に保管し、必要な時に取り出し点検を行っている。

総括など、コロナ対策の影響で当初予定より遅くなったが、HP上に2021年6月には1年目の報告として挙げた。大阪出入国在留管理局が道路を隔てて50Mの距離にあるため、折に触れ各種の相談、報告を行っている。自己点検・自己評価結果についても、HP上公開している。

10.社会貢献（森川）

評価

45	10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4
46	10-2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	4

<現状・具体的な取り組み/課題>

学校施設の貸し出しについては、コロナ渦のため、外部からの利用希望はなかったが、今後要望があれば、施設の貸し出しを行っていく予定である。

また、学生ボランティアもコロナ渦の影響により、予定が中止される等実施できていないが、東南アジア出身の学生が在籍しているため、この大阪ベイエリアや寮周辺でのボランティア活動に参加をしていきたい。

〈総括〉

2021年度より「ウェルランゲージスクール」と改名する本校のミッションは、「幅広い知識と専門技術を有し、社会人として必要なコミュニケーション能力や自律の精神を備えた介護福祉士を育てる」ことである。日本以外の国で生を受けた留学生が、本校で「日本語」「日本文化」を学び、来年から「介護」「福祉」それぞれの理念や技術を学んで、自らの人生・生活を切り開けるようにしたい。生涯役に立つ資格・技術を身に付け、まず日本社会での生活確立、社会貢献となる生き方を目指してもらいたい。いずれ帰国したとき、様々な形で、母国の高齢社会にも貢献できると信じている。発足4年目の今年完成年度を迎える。歴史の浅い本校ではあるが、志高く学生を育てていきたい。